



**岩屋ダム利水貯水量 6,190万トン (貯水率100%)**

**農業用水取水量 3,520万トン (取水率 84%) (ともに9月30日現在)**

今年は台風の当たり年でしょうか。気象庁資料では、台風が日本に上陸した数は、昨年が4個、一昨年が6個、ここ10年間では平均2.8個となっていますから、今年の9月末で5個は、やっぱり例年より多い訳ですね。

先の県内を通過した台風24号は、鉄道の遅れや倒木による停電など被害が発生したものの、管内では目立った被害はなかったようで一安心しているところです。それにしても、ここ最近では異常気象といわれるような状況が、完全に常態化しつつあり、被害規模も拡大傾向にありますね。気象庁からは地球温暖化に伴う気温の上昇に伴い、極端な大雨は今後も増大する傾向にあると発表されており、私たちは自然災害リスクに対する日々の備えを確かなものとし、日頃から防災・減災に取り組む努力を怠らないことが必要と考えます。

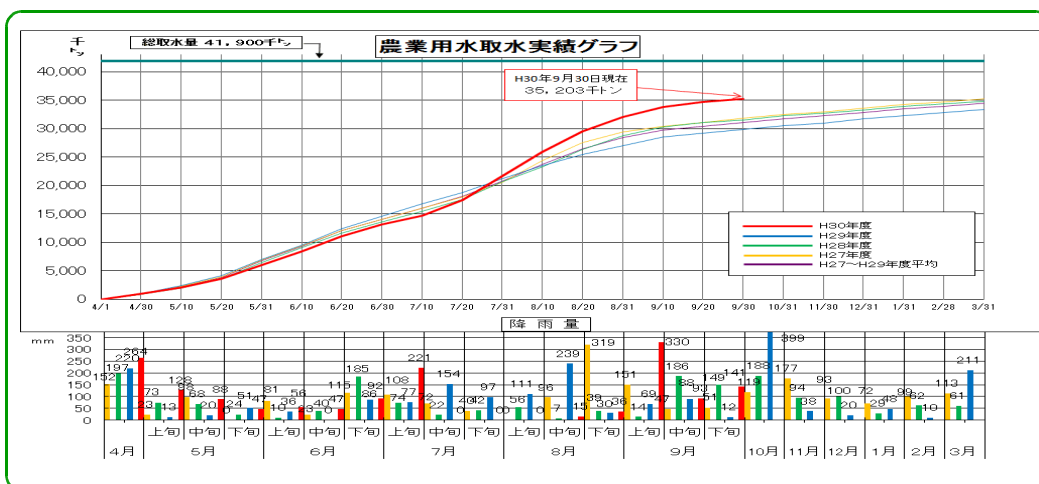
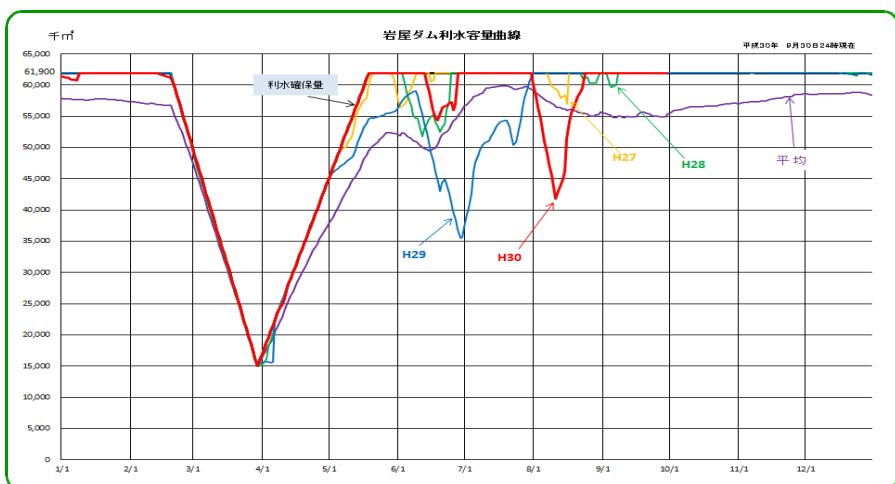
富士山では初冠雪が観測されました。着々と冬のカウントダウンが始まっていますが、今は秋をたっぷり満喫してください。

さて、今年の岩屋ダムの利水貯水状況は、4月・5月の降雨量が平年を大きく上回る状況となったため順調に推移していましたが、7月中旬頃から4週間近くまとまった降雨が観測されず、同ダムの利水貯水率も70%程に下がったことから、8月に水資源機構において水源状況説明会が開催されました。幸いなことに、その後の降雨により河川流況は回復しています。9月の降雨量は平年を上回る状況(144%)となり、今は満水の貯水状況で推移しています。

一方、概ね田植えが始まる4月から稲刈りを終える9月までのかんがい期の農業用水取水量は、9月30日現在、3,520万トン(取水率84%)で、過去3か年の平均取水量より415万トン多くなっています。梅雨明け後の異常な暑さと幼穂形成期頃から出穂期、登熟期頃までの水需要の多い時期にほとんど降雨がなく、農業用水をフル利用されたことが起因をしているようです。

現時点において過去3か年の平均取水実績から来春3月までの取水量を見込み、本年度の総取水量を推計しますと3,862万トン程となり、右岸用水における農水の年間総取水量の枠内(4,190万トン)に収まる見込みであります。

利水者の皆様方には、引き続き用水施設の適切な管理に心がけて頂きますようお願いいたします。



### ◇加茂野支線で漏水補修工事◇

加茂野支線(美濃加茂市加茂野町地内)で水管橋に設置された空気弁立上り管に電食による漏水箇所が発見されたため、緊急に補修工事(9月18日完了)を行いました。



### ◇揚水機場稼働休止◇

非かんがい期に入ったことから来年3月まで揚水機場の稼働を休止することになりました。(長谷、山之上、上蜂屋、下蜂屋の4揚水機場が稼働休止)



### ◇出荷間近です◇

花卉栽培には水は欠かせません。水やりに精を出す花卉農家さん。

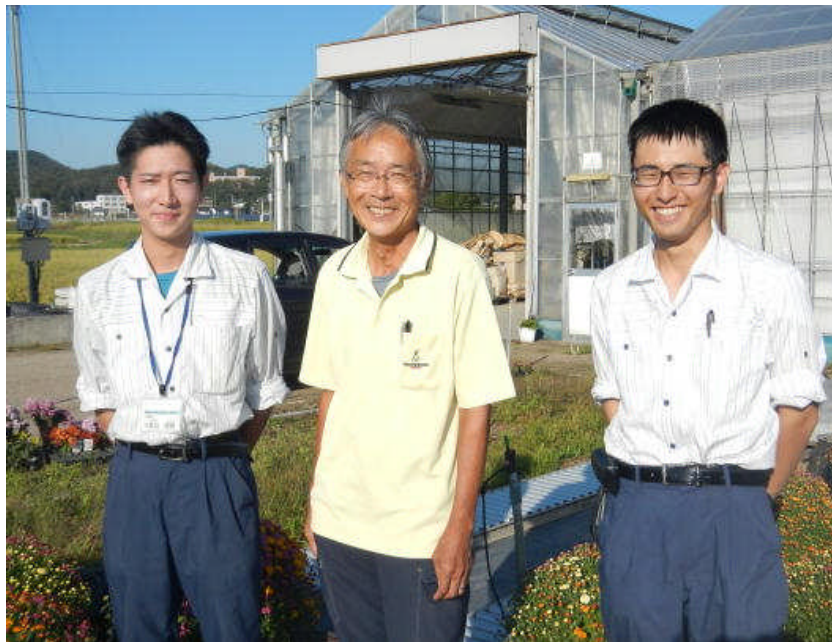
(坂祝町黒岩地内)



### ◇水資源機構新採職員が農家体験研修◇

今年度、水資源機構に採用された新採職員のうち2名が、富加町の丸富園芸さん(代表 河野鉄博さん)のお世話で農家体験研修に参加しています。研修は、水利用や農業経営、農村生活の実情を知り、ユーザーである農家さんの視点を理解し将来の業務(用水の安定的な供給の確保を図る)に役立てようとするのが目的で、期間は10月8日から19日までとなっています。

研修生の皆さんは、最盛期を迎えているガーデンマムなど花卉の出荷準備に大忙し。「同じ作業を続けることは結構きついです、やり終えた後の達成感は格別。水利用の現場を直接体験させていただき水の安定供給の大切さを実感しています。」と頼もしく話してくれました。河野さんは「研修生には人と人が関わり合う姿勢、コミュニケーションの大切さを学び感じ取ってもらえたら、少しでもお役に立てたかなと思います。」と笑顔で語っておられました。



河野さん(中央)と研修生の安立さん(左)と数田さん(右)